

野生魚を活用したサケ増殖手法の検討

- 日本のサケ資源は大規模なふ化放流に支えられてきた
- 一方で、野生魚も無視できないレベルで存在
- 野生魚の活用の可能性

【野生魚】

- 自然産卵によって生まれた個体
- 親が放流魚か非放流魚かは問わない

- ✓ 量的な効果： 不漁年には野生の親魚割合が増加（増殖用親魚の確保に寄与）
- ✓ 質的な効果： 野生魚の持つ適応性の高さと遺伝的多様性を活用した資源の持続力強化

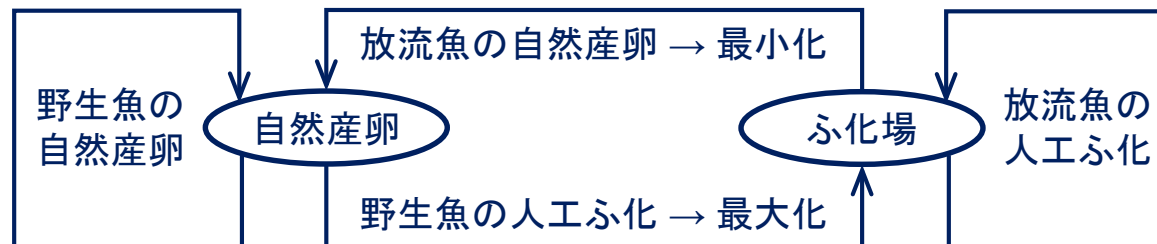
（森田 2020「サケを食べながら守り続けるために」に基づく）

【水産研究・教育機構の取組：2021～2025年】

- ① 野生魚に関する基礎的情報の収集（来遊河川、個体数、再生産特性等）
- ② 野生魚を活用した資源管理モデルの検討（野生魚の維持、自然産卵の確保等）
- ③ ふ化放流への野生種苗の活用方法の検討



放流魚と野生魚を融和させた資源管理方策の概念



家魚化のリスクを軽減

（森田2020に基づく）

【2026年以降】

- 実証試験（ふ化放流事業との融和が課題）